

中川運河再生計画（案）に対する市民意見の内容及び 名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河再生計画（案）に対し、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

皆さまからいただきましたご意見の概要と、それに対する名古屋市・名古屋港管理組合の考え方を公表いたします。

お寄せいただいたご意見をもとに、計画を一部変更させていただくとともに、今後の施策展開の参考にさせていただきます。

なお、ご意見のうち、内容について趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約、または分割等して掲載しておりますので、ご了承くださいようお願いいたします。

【パブリックコメント実施結果】

1. 意見募集期間

平成 24 年 7 月 10 日（火）～8 月 10 日（金）

2. 提出状況

意見提出者数 52 名

意見件数 180 件

提出方法	電子メール	ファックス	郵送	持参等	合計
提出者数	20 名	4 名	16 名	12 名	52 名

3 意見の内訳

項 目	意見件数
中川運河再生計画全般について	14 件
運河再生への期待	12 件
世界へ発信する中川運河	2 件
再生理念について	2 件
再生方針について	1 件
再生方針 1〔交流・創造〕について	63 件
全般	2 件
交流・創造の場の創出	29 件
歴史まちづくりの展開	13 件
魅力ある景観の創出	6 件
水上交通の誘導	13 件
再生方針 2〔環境〕について	42 件
全般	3 件
良好な水環境の創出	15 件
緑豊かな空間の創出	22 件
多様な生き物に親しめる場の創出	2 件
再生方針 4〔防災〕について	10 件
空間計画について	28 件
全般	4 件
にぎわいゾーン	11 件
モノづくり産業ゾーン	6 件
レクリエーションゾーン	7 件
再生に向けたしくみについて	17 件
計画の進行管理	5 件
市民・企業等の活動の促進	12 件
その他	3 件
合 計	180 件

【中川運河再生計画全般について（14件）】

《中川運河再生への期待（12件）》

◆市民の意見の概要

- ・素晴らしい再生計画を有難うございます。
- ・素晴らしい計画だと思います。いろんなゾーンに分け、名古屋市が活性化する元になればいいなと思います。水の都、名古屋市のようになってくれることを期待し楽しみにしています。
- ・全体にすばらしい計画だと思います。
- ・再生方針の総論はすばらしい。
- ・再生理念、再生方針に賛成します。3つのゾーンイメージに賛成する。ささしまライブ24地区が整備され、起点に人が集まることで中川運河全体が活性化できるはずです。
- ・大変よくおまとめになられていることに敬服いたしております。
- ・物流の役割をほぼ終えた運河の水上、水辺空間、歴史等を活かして新たな再生をめざそうとするこの計画の意義に賛成です。運河の生い立ちを物語る倉庫やクレーン、河の後背地にある町工場や企業など、中川運河らしさを残し、活かした再生になることを望みます。
- ・再生計画どおりいけば、名駅及びささしまライブ24地区の再開発、金城埠頭・レゴランド・露橋水処理センター等の一体化が実現できると思います。東地区にないポテンシャルを活かし、西地区の治安が悪い、景観が悪い等のイメージを払拭できればいいと思うのと同時に、全国のモデルケースになるよう期待しております。
- ・クリエイティビティー（創造性）の力が、最大限に生かされることを希望します。一過性の再生、改革に終わることのない、時代に合って変化する、生き続ける再生となることを切に望みます。数字や目先の成果を全てとせず、新しいことを生み出し、創造するエネルギーを大切にす、そのように余裕をもった再生計画の推進となることを願います。
- ・中川運河は陸地側から見えないことや「運河」と思っていない市民もみえると思います。そういった意味では、現在はマイナーな存在意識があります。交通の便の問題もあるかも知れません。
- ・最近いくつかの世界の都市を訪れる機会があり、水面から街の中心部の川や運河の両岸を眺める機会を得た。いずれもかつては舟運の場として利用されていた場所ではあるが、その機能を喪失した現代にあって、再開発が積極的に行われ、新たな都市機能が付与され、すばらしい都市景観やにぎわい空間を創造している。中川運河も是非そうした新しい役割を果たす運河となっていきたい。
- ・中川運河の魅力は、①名古屋市内の貴重な水辺空間、②中川運河が物流の動脈であった時代の名残を留める「眠れるウォーターフロント」（運河及び倉庫群）。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河は、昭和5年の開通以来、水運物流により名古屋の産業発展を支えてきましたが、昭和39年をピークに物資の輸送量は年々低下し、現在は、物流基盤としての役割は小さくなっています。しかし、昭和の面影を残す倉庫群や荷役施設など、歴史的な趣のある水辺空間は、かつての水運を物語る証となっています。

今後は、このような歴史的役割を尊重しながら、都心と名古屋港を結ぶ貴重な水辺としての価値を再認識し、うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河へと再生するため、皆様の期待に沿えるよう取り組んでまいりたいと考えています。

《世界へ発信する中川運河（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・知多半島に加え、豊橋・田原市（渥美半島）、三重県との連携、世界（アジア）を意識した運河になることを期待したい。
- ・中川運河には、世界に発信できるメッセージがたくさんあります。近い将来、リニアの開通により、東京との距離もぐっと短くなり、運河沿いの環境は、大きな意味を持ってくると思います。国際性を強く打ち出す名古屋駅地区からささしまライブ 24 エリア、そこから始まる中川運河であるからこそ、外を受け入れ、外へ発信する中川運河であってほしいと思います。感性の共鳴のできる、日本で唯一の都市の空間となるよう、強い働きかけを切に望みます。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河は、建設当時「東洋一の大河」と呼ばれ、国内のみならず世界にも発信できる水辺のポテンシャルを持っているものと考えております。今後は、本計画にもとづいて運河の再生を進めながら、様々な機会をとらえ、中川運河を国内外に発信してまいりたいと考えています。

【再生理念について（2件）】

◆市民の意見の概要

- ・再生理念「歴史をつなぎ、未来を創る運河」。この実現を切に望みます。私が初めて出会った中川運河は、名古屋駅に次々と現れる高層ビルを背景に、まるで異次元であるかのように、静かに沈黙をする運河でした。過去を使い捨てにするのではなく、確かに育まれた、この運河がもたらした都市の豊かさを再認識し、より多くの人々の新たな夢となり、未来へ繋げられることを切に願います。時代とともに進化して、生き続ける運河の再生を期待します。
- ・方針としてあげている各項目は、いずれも結構な内容だが、計画の焦点がどこに重きを置いているのか良く分からない。中川運河は、名古屋都心と港を直線的に結ぶものであり、名古屋の中心軸でもある。この方針は踏襲するとしても、全体の基本理念は、人を中心とした親水空間の創出でありたい。主役はここを訪れる人びと（地域の人、ビジネスの人、観光客などなど）であり、この軸に人が集まることが重要な視点であり、結果として名古屋の軸がさらに東西に広がり新たな発展につながる。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

名古屋圏の産業発展を支え、工業都市名古屋のまちづくりに貢献してきた歴史的背景を持つ中川運河においては、昭和の面影を残す倉庫群に代表される運河の歴史や原風景を大切にしながら、人びとの交流による市民活動の活性化やにぎわい施設の誘導、未来を支えるモノづくり産業の誘導もを行いながら、運河の再生を進めてまいりたいと考えています。

【再生方針について（1件）】

◆市民の意見の概要

- ・中川運河の再生には、方針1【交流・創造】や、方針2【環境】という切り口を深く追求していくべきと考えます。方針3【産業】については、すでに物流運河としての役割が終えていることが明らかであるにもかかわらず、なぜその歴史を継承して「モノづくりの未来を支え続ける産業空間の形成をめざす」のでしょうか。運河の再生は、水空間でしかなしえない新たな付加価値を求めていくことが重要です。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

水運による物流は少なくなっていますが、現在でも産業軸として名古屋のモノづくりを下支えています。今後も、運河の歴史的役割を尊重しながら、周辺の産業特性や、名古屋市が進めている先端産業等の育成の視点を踏まえつつ、未来を支えるモノづくり産業を誘導することにより、名古屋の産業空間としての価値を高め、次世代に継承してまいりたいと考えています。

【再生方針1〔交流・創造〕について（63件）】

《再生方針1／全般（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・ 運河の非日常の空間は、アーティストにとっては想像力くすぐられる空間です。また、都心では見られない大きな倉庫空間は、アーティストにとっての理想の環境です。アートによって育まれた感性が、これからの若者が強く生き抜くための力となります。中川運河の水辺は、その感性を育む水辺となることを強く期待します。
- ・ 水辺を利用した賑わいの場の提供。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針1のように、今後は、中川運河のにぎわいと魅力の向上に向けて、運河を舞台とする市民交流や芸術などの創造活動が継続的に行われるよう支援してまいりたいと考えています。

《交流・創造の場の創出／沿岸用地への憩い・にぎわい施設の誘導（11件）》

◆市民の意見の概要

- ・ 運河沿岸の土地利用規制の緩和。
- ・ 飲食関係業者等の誘致。
- ・ 元々倉庫があった所で数多く空地があります。部分的にオートキャンプ場としてはいかがでしょうか。単に公園にするより効率的だと思います。名古屋の水族館や鉄道館やナガシマに行くために、近くで車で休憩出来る場所がありません。名古屋以外からの方を集客するのも中川運河活用のひとつでしょう。
- ・ 水質を良くする事が、第一条件となるが、魚釣り広場等設置する。
- ・ 目的地まで色々なお店。応募者に、平等に、場所は抽選にて。
- ・ 水辺に価値を見出すということでしたら、楽しく市民が集える施設として水面に張り出したテラス付の市民プール、図書館等があれば楽しいと思います。
- ・ 名古屋港管理組合は一定の条件付で、運河沿いの空き地に艇庫を作ることを許可し、企業、団体、特に大学に呼びかけると良いと思う。
- ・ 運河歩きや運河らしさの調査などを続けていますが、運河に集まる際の拠点が無いのが非常に不便です。残念ながら現在、空き部屋があっても、又貸しになるということで、行政の許可が得られません。この再生計画を切っ掛けの一部屋で良いので、集まれる場所を許可して頂けると嬉しいです。
- ・ 水上マーケット、水上レストラン等の商業施設の誘致による、街の活性化、買い物のたのしみ。
- ・ 飲食しながらのコンサートの開催による、飲食の楽しみと音楽による癒し。
- ・ 運河の役割・機能・形態を学習できる施設（運河博物館）を建設し、国内外の運河を展示・紹介することにより、運河の重要性・魅力を学習する。運河博物館の建設主体、運営事業者の招致が必要である。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河の沿岸用地は、臨港地区に指定され、そこに立地する建物は主に港湾・物流関係の用途に制限されています。しかし、今後は、皆さまからいただいたご提案を参考にしながら、市民や観光客が水辺を楽しめるよう、一部の沿岸用地に、商業施設や文化・芸術施設などを誘導し、憩い・にぎわいのある空間の創出をめざします。そのため、沿岸用地での新たな土地利用を展開するための貸付ガイドラインを策定し、各ゾーンの特性や沿岸用地の利用状況、沿岸用地の後背地や運河と直交する主要な幹線道路沿いの土地利用など、周辺地域の状況を踏まえながら、段階的な展開を図ってまいりたいと考えています。

なお、商業施設等誘導の効果・課題の検証のため、現在、沿岸用地の2箇所での先導的取り組みとして、名古屋港管理組合が商業施設等の提案募集事業を実施し、運河での憩い・にぎわい空間の創出に向けて取り組んでおります。

《交流・創造の場の創出／水上スポーツ機能の拡充に向けた環境整備（11件）》

◆市民の意見の概要

- ・いろいろな集会施設やスポーツセンター等が人々に利用されることが必要だと思います。現在のボートハウスも年一回で十分利用されているとはいえません。
- ・愛知国体でボート・レガッタ等の競技が行われた実績があるので、常時ボート等の川遊びができるように環境を整備されたい。
- ・女子大学生が県下屈指進学校を卒業して早稲田大学へ進学し、中川運河で練習を重ねてきて見事ボート選手で五輪出場を果たした。大変喜ばしい事です。この機に運河を市民の誇りにしたい。
- ・水辺そのものの価値を利用（水上スポーツ）。
- ・漕艇センターは、地元民の利用は少ないですよ。正面玄関が閉じたまま、入りづらいです。
- ・昭和58年10月10日（体育の日）の第1回名古屋レガッタが無事終了したあと、名古屋市漕艇協会から名古屋市長へ中川運河にボートコースをとの要望書が出され（名古屋港管理組合管理者他にも同様）、いろは橋（新設橋りょう）、東海橋（改築）が、何れもワンスパンで完成した（この上流に水管橋などありますが）。
- ・水上スポーツ（特にボート）を盛んにし、市民の皆さんが見ていて楽しめるようにする。ロンドン五輪に旭丘高校出身の女子選手（早大生）が出場している。
- ・ボート競技等の水上スポーツ大会の開催による、水上スポーツの振興。国際大会等の開催による名古屋の知名度の向上。
- ・ボート遊び等の水上遊戯の場の提供による、癒し、家族・友人等との触れ合い。
- ・運河を横断する水道管の撤去。
- ・水上スポーツの活性化策として、まず、沿岸に近い中学校、高校などにおいて体育の授業の一環としてカヌーやボートの体験乗艇を繰り込むことにより環境整備を高める。このため、教育委員会と連携し、体育教師などを中心として指導者養成を行う。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河の中川口周辺では、毎年名古屋レガッタやドラゴンボートレース大会が開催され、普段の練習の場としても利用されています。平成5年に整備された名古屋港漕艇センターは、水上スポーツの拠点となっています。計画書の方針1のように、今後も運河の再生には、水上スポーツの活性化が重要と考えており、水管橋の移設も検討しながら水上スポーツ機能の拡充に向けた環境整備を進めてまいりたいと考えています。その際には、タンカー船や観光船等、他の利用者との安全な水域利用についても検討を進めてまいりたいと考えています。

《交流・創造の場の創出／市民の交流・創造活動の継続的な展開（7件）》

◆市民の意見の概要

- ・イベント（スポーツ系（レガッタとか）、音楽系（水上音楽祭））なども良いのでは。
- ・沖縄のような「エイサー」で市民を楽しませる。
- ・市民が気楽に楽しめる場所として「電飾船」の運行。
- ・ボートのオリンピック選手がでたので、それにちなんだイベント等を企画してはどうか。
- ・クリスマスイルミネーション、新年カウントダウン、花火大会等のイベント開催による、水辺と色彩・音による感動。
- ・マラソン大会、自転車競走等のスポーツイベントの開催による、ロードスポーツの楽しみ。
- ・市民が関心を寄せる活動の継続（フォトコンテスト・乗船会の開催・生涯学習センターなどとの協働）。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

皆さまからのご提案のような、にぎわいの創出や運河の魅力向上につながる市民団体等の交流・創造活動の展開は重要であり、その継続や拡充に対する支援を行ってまいりたいと考えています。

《歴史まちづくりの展開／全般（6件）》

◆市民の意見の概要

- ・運河の護岸は珍しく人造石工法が使われ、それ自体が土木遺産として認められている。これらの保存はもちろんだが、中川運河全体を近代産業遺産とするべきではないか。松重閘門は国の重要文化財を目指し、倉庫群を含めた景観も改変を避けるよう努めてほしい。
- ・歴史・文化的な遺産の保存・活用や活動の推進。
- ・再生計画における歴史まちづくりにおいては、関係性や時間的変遷が持つ歴史的価値については希薄な記述になっています。中川運河はここ数年でも昭和時代の面影を残す建物やここ数十年の歴史を刻む木々が、取り壊され切り倒されています。今歯止めをかけないと取り返しがつかなくなるギリギリのところまで来ているのではと思います。どうしても壊さなくてはならないと言う場合は詳細な記録を取るなどの処置が必要ではないでしょうか。
- ・中川運河の産業考古学上の重要性をアピールする
- ・小栗橋周辺の旧街道沿いには中川区の芸術活動（鈴木バイオリン、絵画記念館、現代詩作者生地など）の資産が残されておりウォーキングなどで訪れることができます。また昔、市電（下之一色線）の大曲りした軌道の跡が黄金交差点近くにあり、さらに荒子川にそそぐ、惣兵衛川の痕跡も見ることができます。文化遺産はそこそこあります。
- ・歴史を大切に再生を考えるには、中川運河固有の歴史的な構造（要素+関係+時間）を明らかにする必要があります。失われてしまった多くの運河らしさの再検証と、その構造を誰もが使えるような状況づくりをする必要があります。この活動を今後10年の前半で行うと良いのではと思います。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

運河の歴史的たたずまいを醸し出す倉庫や護岸、橋梁、樹木、神社など、運河や周辺の歴史資産について保存または活用するとともに、それらを活用した市民等の活動を支援して、運河や歴史資産に対する興味・関心を喚起し、運河への愛着と誇りの醸成を図ってまいりたいと考えています。

また、ご意見のように、樹木や運河に直接関係しない周辺の歴史的資産についても、有効に保存または活用していくものとし、計画書を以下のように修正いたします。

- ・31 ページ4行目：『倉庫群や特徴的なデザインの橋梁など、歴史的なたたずまいを醸し出す運河特有の空間を、適切な維持管理のもと保存・活用していきます。』⇒『倉庫群、特徴的なデザインの橋梁、樹木など、歴史的なたたずまいを醸し出す運河特有の空間を保存・活用していきます。』
- ・31 ページ6行目：『運河にゆかりのある周辺の歴史資産』⇒『運河周辺の歴史資産』

《歴史まちづくりの展開／運河や周辺の歴史資産の保存・活用（護岸）（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・プロムナードは魅力的ですが、本来の目的が運河の回遊性であるならば、何か違った形で回遊性を成立させられないか、広く意見を求めた方が良いのではと思います。プロムナードの導入は歴史的な石積み護岸を失い、歴史的価値、観光資源的価値を引き下げ、どこにでもあるような水辺空間を生み出してしまう可能性もあります。既に作られてしまった護岸は仕方がないとしても、全体的に作るのではなく、必要などころに必要な形で作り、中川運河オリジナルのプロムナードのあり方を見つけられると良いです。
- ・自然護岸の整備。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

運河の親水空間の創出や回遊性の向上にとってプロムナードの設置は有効であると考えており、計画書の方針1のように、石積み護岸や樹木など運河特有の風景を効果的に保存・活用しながらプロムナードが設置できるよう、具体的な整備方法について検討を進めてまいりたいと考えています。

《歴史まちづくりの展開／運河や周辺の歴史資産の保存・活用（松重閘門）（4件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河の再生の一つとして水上交通による回遊性も必要と思う。そのためには、中川運河と堀川との連携が重要となる。それには、今閉鎖されている松重閘門を再度復活させる必要がある。
- ・是非松重閘門を復元し、堀川・中川運河の連携を平時の場合、有事の場合を含めて復元活用すべきだと思っている。復元の見通しが明るくなった時には“全国運河サミット”を名古屋で開催したいと思っている。
- ・松重閘門の復元。
- ・これからの10年間の主な取り組みの中で松重閘門の機能の復活をという思いがあるでしょうか。あるならば、将来の町づくりのビジョンとして大きな役割が期待できることまちがいないと思います。中川運河・堀川ともに連携することで賑わいが連続します。松重閘門の機能の復活は断ち切られた歴史と役割をつなぐ大きな要と思います。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

松重閘門は、昭和61年に名古屋市指定文化財に指定され、平成5年には名古屋市都市景観重要建築物にも指定されました。

運河を象徴する歴史資産である松重閘門の再生につきましては、計画書の方針1のように、まずは、見学会やシンポジウム、写真コンテスト等を開催して機運醸成を図り、将来的には、施設の耐震化、構造的な問題、多額の財源確保、舟運の需要などの課題を踏まえながら、通船機能の復活をめざして検討してまいりたいと考えています。

《歴史まちづくりの展開／歴史資産を活用した活動の展開（1件）》

◆市民の意見の概要

- ・小学校の生きた教材として運河の役割や歴史を学ぶ場所にするといいと思う。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針1のように、歴史まちづくりの展開の中で、中川運河を学校教育等の教材として活用し、市民の興味・関心を喚起してまいりたいと考えています。

《魅力ある運河景観の創出（6件）》

◆市民の意見の概要

- ・歩道ができれば、ガス灯などのおしゃれな電灯を設置することにより夜のデートスポットや、ウォーキング・ランニングコースとし、多くの人を通り、にぎわっている運河になると思います。
- ・きれいな風景になるならば、散歩したり憩いの場になったり、とてもいいと思います。
- ・篠原橋を通ることが多く、そこから見える名古屋港へ向かっての景色は名古屋の大切な財産だとも思っている。
- ・地域の軸となる運河再生には、兩岸を水面から眺める視点を大事にしていきたい。
- ・運河の視覚的楽しみ方は運河に対して直交している場合と、平行している場合で大きく異なります。また、広範囲の運河を見る視点と、隙間から一部を見る視点でも楽しみ方は異なります。水面近く、見下ろすという高さ方向でももちろん異なります。視点場はそのような多様な見方が出来るように設定すると運河の楽しみが広がるのではないのでしょうか。またそのような楽しみがより多く生まれるように、今後の空間形成において導く必要があると思います。
- ・港側から一直線に伸びる運河は魅力的です。運河の水面際にソーラー付LED外灯（電球色）を均等距離で設置します。水面を照らすことが出来るのも運河ならではの魅力です。これら設置は地域や地元企業協賛とし費用捻出します。同時に中川運河沿いの建物の夜間照明は全て電球色を標準とします。すると夜、街中に赤い直線が敷かれる訳です。きっと名古屋の観光名所となり都市の魅力UPに役立ちます。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針 1 のように、古い倉庫や荷役施設等の特徴的な景観要素の保存や、プロムナード、橋梁、建物等の照明を利用した夜景の演出など、地域の皆さまや沿岸企業等の協力を仰ぎながら、魅力的な景観の創出を図ります。

また、いただいたご意見のように、プロムナードや橋梁、観光船、カフェ・レストランなど、運河景観を眺望できる視点場を創出することも必要であると考え、計画書を以下のように修正いたします。

- ・ 34 ページ 7 行目：『視点場を発掘し、情報発信します。』⇒『視点場を発掘・創出し、情報発信します。』
- ・ 57 ページ 13 行目：『視点場を発掘し、発信します。』⇒『視点場を発掘・創出し、情報発信します。』

《水上交通の誘導（13 件）》

◆市民の意見の概要

- ・ 中川運河の舟運を、定期的を実施して欲しい。
- ・ 3つのゾーンを往来する交通手段は何かあるのでしょうか。
- ・ 将来的には、遊覧船も航行できる様にして頂きたい。
- ・ 屋形船による風物風景観光化。川から見た周辺の風景など。
- ・ 堀川は“川”というイメージですが、中川運河は“海（港）”の延長といったイメージです。ポテンシャルは大きいと思う。海上交通を充実させてほしい。
- ・ 他の水辺と連携した観光等の振興。
- ・ 水辺のにぎわいを喚起するには、観光の舟運利用や人の対流をうながす水上交通の整備が欠かせない考える。ささしま堀止から中川橋までの間、橋げたのどこかに船着場を増設する。観光目的とするルートは名古屋港水族館ガーデンふ頭行きをメインとする。また、堀川経由、名古屋城行きと、レゴランド等開発拠点となる金城ふ頭ルートを設けることが望ましい。中川橋から小栗橋の間には、市バスの停留所が各橋ごとに既存するため、その乗船場周辺エリアに“なごボン”ならぬ、カナルボン（仮）も導入検討に入る。
- ・ 運河を活かすには観光（都市景観）かと思えます。歴史的な運河を使って名古屋港⇄名駅（ささしま）を定期的（主に土日祝）に航路（観光船、イベント船）を出すことはいかがですか（経営的には厳しいかもしれませんが NPO や観光業者の参加で）。水面からの町の風景は忘れられない思い出となります。
- ・ 松重閘門を開通させ、名古屋港→中川運河→堀川→名古屋港というように船が行き来できるシステムの復活を提案します。
- ・ 運河と港をつなぐ遊覧船、ナイトクルージングの運航。
- ・ 運河内の各ゾーン、イベント会場を移動するため、水上タクシーなどの運航、安全で便利な発着場（浮さん橋）の整備。
- ・ 名駅・中川運河・名港・堀川等を結ぶ観光船。水陸両用船等の運航による、水上観光の楽しみ（産業観光の創出）。
- ・ 係船施設の整備。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針 1 のように、港と都心のにぎわいをつなぐため、中川運河における水上交通の不定期運航の充実や定期運航の就航をめざします。さらに、堀川や名古屋港、七里の渡しなど、広域的な水上交通網の充実やネットワーク化を図り、名古屋の観光都市としての魅力を高めてまいりたいと考えています。

船着場につきましては、現在、堀止船だまりに計画していますが、さらなる追加等は、今後の舟運の状況等を見ながら、必要に応じて検討してまいりたいと考えています。

なお、名古屋市が事務局となり、平成 23 年度に名古屋港管理組合を始めとする行政機関による「水上交通網推進プロジェクトチーム」を、平成 24 年度には行政機関に加え、旅行業者や市民団体等をメンバーとする「水上交通網推進プラットフォーム」を設置し、水上交通の活性化に向けた検討を進めております。

【再生方針 2〔環境〕について（42 件）】

《再生方針 2 / 全般（3 件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河や堀川は、夏の市街地の温度上昇を抑えるという、環境上の重要な働きがある（一方、臭い、汚いというイメージも）。機会を捉えてその知見を市民に提示するとよい。
- ・水辺を利用した癒しの場の提供。
- ・中川運河の周りを歩いたけれど、人が集まるような雰囲気を感じられませんでした。市民の憩いの場所とは言えないと感じました。「人と人、人と運河」の繋がりの強化を図るには、歩道の整備や水質の改善など基本的なことを徹底的に取り組んでほしいと思います。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針 2 に記載のように、緑豊かで生き物に親しめ、自然を感じることでできる水辺空間の創出をめざして、水質の改善、緑地・プロムナードの設置、生き物に配慮した施設整備などを行います。また、市民の環境意識の醸成を図るため、環境学習の場として運河を活用してまいりたいと考えています。

特に、今後 10 年間の取り組みとしては、ささしまライブ 24 地区の開発と連携しながら、にぎわいゾーンから緑地・プロムナードの整備を進めるとともに、高度処理水の活用等による水循環の促進を行ってまいります。

《良好な水環境の創出（15 件）》

◆市民の意見の概要

- ・東京スカイツリーのにぎわいも隅田川のきれいな水が支えているのです。堀川にしても中川運河にしても、このままの水質の状態をいつまで続ける気でしょうか。大阪の道頓堀もしかりですが、環境の良い都市に人や企業はどんどんとられます。
- ・とにかく水質を向上させて。
- ・水質（下水）の問題も、「開発」の前、あるいは同時並行的に改善をお願いしたい。
- ・今、ボラがかなり繁殖して毎日ジャンプして見て飽きません。中川運河をきれいな運河に浄化するのはもちろんです。
- ・もっと身近な運河になって行く為に、まずは水質の管理をする事が重要だと思います。四季折々の自然に出会えたら素敵ですね。
- ・中川運河の浄化活性。
- ・市民の貴重な財産、中川運河は特に港区民には馴染みが深い所です。昭和 20 年代にはよくこの地で夏休みになると子供の頃水遊びをして楽しんだものです。当時の水質を取り戻したいものです。
- ・水質の浄化。底質の浄化（ヘドロの除去）。
- ・環境学習・体験の場の提供を推進していただきたい。
- ・水辺を利用した環境学習の場の提供。
- ・「魚付き林付釣堀運河」モデルを提案します。釣りだけではなく、水底にすむ二枚貝や水草という水圏生態系の創出を担保する魚付き林を、運河沿いの樹林群に当て嵌めようと考えています。海域ではアサリ、汽水ではヤマトシジミ、淡水ではマシジミが湧くようになるのが、私のゴールイメージです。雨水を、土を通して上手に地下でゆっくり流し、生き物の豊かさにつながる水質に変えられる周辺整備をすれば「釣堀運河」ができます。
- ・中川運河の東支線は松重閘門を経て堀川の水環境とも深く関係しています。中川運河、特に東支線は、砂で「ヘドロ」を「覆砂」し「圧密」してヘドロが露出しないようにすることが最善の策だと思います。「覆砂」の上には「抽水植物（ヨシ、ガマ、マコモなど）」を育成させ、水環境の改善を行います。
- ・第一に中川運河のヘドロを撤去して水質浄化に努める。
- ・水上バスを走らせ新たな公共交通機関を設けることで自動車から排出される CO₂ の削減になる。

水上バスが走ることによって運河の水の入れ替わりが多くなることや水中に酸素が送られることで更なる水質の浄化につながります。きれいな水辺には人が集まるようになり、新たな産業の発展や地域の活性化が期待されます。

- ・ビオトープ、干潟等の整備、アコヤ貝の養殖による、水辺生物の生態等の学習、自然との触れ合いによる癒し。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河の水質は、現在、環境基準（E 類型：東海橋 BOD10mg/l以下）を概ね達成しています。しかし、中川運河の再生には、さらなる良好な水環境の創出が不可欠であると考えておりますので、計画書を以下のように修正いたします。

- ・37 ページ 4 行目：『中川運河の再生には、良好な水環境の創出が不可欠です。』の追加

良好な水環境の創出のための取り組みとしましては、計画書の方針 2 のように、水辺の利用を踏まえた目標を設定し、高度処理水の活用等による水循環の促進や合流式下水道の改善を行うとともに、底質改善に向けた検討を行います。

また、市民・企業・学校・行政等の連携により水質の改善に努めたり、環境学習の場としての活用を通じて、市民の環境意識の醸成を図ります。

《緑豊かな空間の創出／緑地・プロムナードの設置（15 件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河の川幅を狭めて、道路や広場の確保ができるとよい（幅が広過ぎる）。
- ・静かに風景、風・大気、自然を楽しみたい。「散歩」など「憩い」の場の提供をお願いしたい。
- ・景観が最も大切であると考えます。景観の中でも特に力を入れていただきたいのは歩道です。運河沿いに広い歩道を作るだけでも印象はかなり変わると考えます。
- ・歩道が運河に面しておらず、道も狭くとても歩きにくかったです。市民と運河との共存というような感じは全く感じられませんでした。運河沿いに大きな歩道の整備をしていただきたいです。
- ・名古屋の街中にある運河は名古屋港からの風の通り道となっていて、熱や大気の循環をし、さらに水辺を緑豊かにすることでヒートアイランド対策になる。
- ・中川橋～いろは橋の間に部分的に憩いのある場があるが、北へ向かって（ささしまライブ 24 地区方面）順次公園化をする。
- ・運河の東西南北へ桜並木を作り散歩道として又、遊歩道、サイクリング道を整備してもらいたい。
- ・大人や子供が心いやされる緑豊かな公園も十分とはいえません。
- ・遊歩道を整備してください。
- ・運河を渡る風を感じながら気持ちよく水辺を散策するため遊歩道の整備をお願いしたい。
- ・ボードウォークなど水辺に配置した散策路や緑豊かな公園を軸に、周辺の色々な施設と結ぶ。
- ・植栽の整備。
- ・水辺公園、散策路の整備による、自然との触れ合い、癒し、健康の増進。
- ・東海橋又、いろは橋中央から、運河を見た場合、なにも季節感が得られません。荒子川岸のような桜並木は、実現可能ではありませんか。
- ・水面利用を容易ならしめるため、今後の護岸整備には積極的に階段護岸を設けていくこととする。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針 2 のように、花の匂いや緑陰を楽しみ、風を感じることでできるプロムナードを、運河側に張り出す形で設置します。

また、堀止船だまりや露橋水処理センター上部空間のほか、沿岸用地や周辺地域の状況を踏まえて、緑地の整備を行うとともに、沿岸用地内の緑化を進めます。

《緑豊かな空間の創出／沿岸用地内の緑化推進（3件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河の植物のほとんどは自然発生的なものです。ここ数十年で、建物と関係しあって美しい程のバランスで成長してきました。自然発生故に嘘っぽさが無く、固有の歴史の上に存在しているので、運河特有の景観であると言えるのではないのでしょうか。このような景観の評価と維持を是非してもらいたいです。
- ・運河の沿岸を緑地化する。沿岸の賃貸条件として、土地の何割かを緑地化する条件で賃貸してはどうでしょうか。
- ・中川運河には、自然発生した非常に多くの緑が存在しています。このような独特な自然環境を守るといふ配慮をしてもらいたいです。そして、そのような独自の自然環境の構造を利用した新しい緑豊かな空間を創出するためのガイドラインを作る必要があると思います。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

現在、沿岸用地の貸付においては、借主が更地に原状回復して返還することが原則となっています。今後、沿岸用地の緑化推進を図っていくためには、既存の緑の維持・確保はその方策の一つと考えられます。一方で、沿岸用地の効率的な貸付を促すため、新たな企業が立地しやすい環境を整える必要もあります。このため、沿岸用地の貸付ガイドライン策定の中で、既存の緑の有効な維持・確保についても検討してまいります。

《緑豊かな空間の創出／協働による緑の維持管理（4件）》

◆市民の意見の概要

- ・緑地帯の創成について、一人一本植樹運動でやれないでしょうか。樹には、協力者の名札をつけたらどうでしょう。
- ・沿岸工業地域は、人が住んでいないため、除草・清掃等、自主的なマネジメントがなされておらず、荒れ放題である。公園が設置され、水辺へのアクセスは良好だが、これらの汚れが人を遠ざけている印象があり、早急に具体的に、誰が、どのようにマネジメントするのか決めるべきである。
- ・中川運河を、「日本一」「世界一」にして頂きたいです。まずゴミ問題。私は環境に少しでもお役に立ちたいと、時間ある限り道路清掃致しております。いろは橋周辺、東海橋周辺、太平通り、周辺ゴミ清掃致しております。このようなテーマを解決して運河再生を考えたいですね。
- ・ごみ投棄禁止キャンペーンと清掃活動。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

名古屋港管理組合では、中川口緑地や護岸張り出し部の草刈など、限られた予算の中、一定の頻度で維持管理作業を行っておりますが、緑豊かな空間の創出のためには、行政による対応だけではなく、市民・企業・学校等との協働が必要であると考えております。このため、計画書の方針2のように、協働による緑地・プロムナードの維持管理手法について、皆さまからの提案も参考にしながら検討し、実施してまいります。

《多様な生き物に親しめる場の創出（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・自然保護の道筋を明確なものにしていきたい。
- ・生物などを学ぶ場所にすると思う。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針2のように、生き物が生息・生育しやすい環境に配慮した緑地・プロムナードや護岸等の整備、水質浄化を進めます。また、運河に生息・生育する生き物をホームページで紹介したり、市民参加型の水生植物調査や生き物観察会などを実施します。

【再生方針4〔防災〕について（10件）】

◆市民の意見の概要

- ・中川運河については、地震、水害時の不安があるのでこの計画を機にそういった整備もともになされていく事を期待しています。
- ・防災施設としての利用。
- ・護岸の整備。
- ・豪雨時の雨水調整池としての利用による、浸水災害の軽減。
- ・安全・安心（防災・減災）の確保が最優先されるべきでは。計画の中の具体案が（他と比べて）はつきりしない印象がある。
- ・安全・安心を最優先をお願いします。中川運河周辺は海拔ゼロメートル地域、液状化地域です。しっかりとした対策をお願いします。津波対策、夜間災害時（停電等）の対策。工業用地を親水空間に変える際の汚染対策。
- ・防災マニュアルの策定。
- ・避難路、ハザードマップの整備。近隣居住者のほか近郊地来訪者や他府県からの観光客が多いため、避難場所や誘導路の確保が必要と考えます。
- ・防災物質の備蓄（遊休はしけ）、倉庫の活用による災害の軽減。はしけ、倉庫の所有者の了解。
- ・浸水被害は、下水道施設の整備進捗により年々解消されてきていると思われる。但し、筈瀬川流域の中村区、西区の一部区域は依然として浸水被害は解消されることなく“東海豪雨”をむかえた。上下水道局と緑政土木局により、平成20年8月末豪雨対策を加え、現在事業実施中であり、これらが完成すれば或る程度改善されると思っている。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針4のように、南海トラフの大規模地震による新たな想定地震・津波高を踏まえ、中川口通船門の耐震性・耐波性の検証及び必要な対策を実施します。また、老朽化した護岸の改修を行います。

豪雨災害に対しましては、運河の排水と貯留機能の増強の検討などにより治水機能の強化をめざします。また、名古屋市が緊急雨水整備事業を実施中であり、中川運河流域（旧筈瀬川流域を含む）においても、雨水貯留施設の設置やポンプの増強等を鋭意進めております。

防災の取り組みにおきましては、「（仮称）中川運河再生プラットフォーム」等において、避難地、避難路等の防災情報の発信・共有を行うことが重要であると考え、計画書を以下のように修正いたします。

- ・41 ページ 5 行目：『運河施設の耐震性や耐波性のさらなる強化を図ります。』⇒『運河施設の耐震性や耐波性のさらなる強化を図りつつ、防災情報の発信・共有を行います。』
- ・42 ページ 9 行目：『防災情報の発信・共有 東日本大震災を踏まえて今後策定される名古屋市地域防災計画での被害想定や避難地、避難路などの防災情報を発信し、市民・沿岸用地利用者等との情報共有を進めます。』を追加
- ・65 ページ 11 行目：『防災情報の発信・共有 ○名古屋市地域防災計画の被害想定や避難地、避難路などの防災情報について、「（仮称）中川運河再生プラットフォーム」（第6章参照）などを活用しながら発信し、市民・沿岸用地利用者等との情報共有を進めます。』を追加
- ・67 ページ 表5-5：『防災情報の発信・共有』の項目を追加
- ・68 ページ 図5-1：中川運河全域の主な取り組み内容に『・防災情報の発信・共有』を追加
- ・69 ページ 表：中川運河全域の取り組み内容に『防災情報の発信・共有』の項目を追加

【空間計画について（28件）】

《空間計画／全般（4件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河両側に存在する運河用地の適正管理を行い、間違っても土地売却の声が発生しないよう留意が特に必要と思う。管理者として貴重な土地を将来にかけて確保されるようお願いする。
- ・中川運河は約10kmと延長も長いので、ゾーンごとにコンセプトを設け、変化に富んだ整備がよいと思います。
- ・再生計画のようにゾーン分けがきちっと出来れば、工業地帯もすばらしい景観の一部となり、相乗効果で、人が集まると思う。
- ・後背地のまちの再生とあわせて、新たな経済圏が生まれることを目指しつつ、そのために必要なコストとして、水辺の再生をすすめる必要がある。水辺をにぎやかにするすべての事業が地域のバリューを上げるために必要である。3つのゾーンは後背地（まち）との関係において、弾力的に運用されるべき。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

沿岸用地は名古屋港管理組合が管理しており、今後、各ゾーンの再生イメージに応じた土地利用を的確に進めていくためにも、引続き、公共管理の土地として、運用してまいります。

空間計画につきましては、周辺の開発動向や沿岸用地・周辺地域の土地利用状況を踏まえ、3つのゾーンに分割し、それぞれ基本的な再生イメージとして設定しており、今後の沿岸用地や周辺地域の土地利用状況を踏まえながら、運河の魅力向上に向けて、効果的に沿岸用地の土地利用を図ってまいりたいと考えております。

《にぎわいゾーン／全般（6件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河は、ささしまライブ24地区名古屋駅に近く名古屋の顔にしない手はありませんね。新幹線、JR、名鉄、近鉄、あおなみ線、そこを降りたら緑いっぱいね。緑地帯、楽しめる店、散歩コース、イベント、とにかく何もかも楽しめます。そんな景観に。
- ・にぎわいゾーンの中にも従来からあるものづくりの拠点が共存していく形で計画が推進されることを要望します。
- ・プロムナード等歩道を設けるには、運河の一部を新たに埋立でもしない限り、倉庫群を維持したままでの整備は難しいのではないのでしょうか。にぎわいゾーンにゆとりを持たせるためには、多くの倉庫群および沿岸施設を取り壊していったん更地にしないと、新たな商業施設や歩道の設置は難しいように見えます。
- ・中川運河は名古屋駅から少し距離があるので、人を集めるのは難しいように思いました。にぎわいゾーンが出来れば魅力的だけれど、人を増やすことよりも市民の声を大切に地域活性化していくべきだと思いました。
- ・露橋浄水センターから放流する水を金シャチの口から放流し運河内の水の流動を作り出し観光名所を作る「金シャチ噴水」の整備。中川運河を「大名古屋発展の聖地」として位置付け、創作童話や絵本を一般公募して、市民参加を促し物語作りをする。人は意味が無いとその場に集まりません。
- ・堀止辺りは、水上レストラン、シアター、出来ればカジノを。これで集客が可能。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

にぎわいゾーンは、2037年のリニア開業を控えた名古屋駅に近く、また、現在開発が進められているささしまライブ24地区に隣接する地域であり、計画書の方針1・2のように、堀止緑地の整備やプロムナードの設置、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導、水上交通の運航、市民活動の継続的な展開などを通じて、都心地域に集まる人々が訪れたいくなるような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成をめざします。具体的な取り組みにつきましては、皆さまからのご提案も参考にしながら、検討を進めてまいります。

なお、今後新たなにぎわい施設の誘導にあたっては、歴史的な倉庫群の活用も検討してまいりたいと考えています。また、プロムナードにつきましては、運河側に張り出す形となるため、倉庫群を取り壊さずに整備することが可能ですが、プロムナードの構造をわかりやすくお示ししていませんでしたので、計画書を以下のように修正いたします。

・P62：プロムナードの護岸断面の図の挿入

《にぎわいゾーン／交流・創造の場の創出・緑豊かな空間の創出（4件）》

◆市民の意見の概要

- ・愛知大学にはカヌー部やヨット部があるので、大学近辺の上流にもカヌーに乗ることができる場所があると、とてもうれしいです。中川運河でカヌーポロをすることができれば、より多くの人に目を向けてもらうことができるため、中川運河の発展を通じて、カヌーポロの発展にもつながると考えられます。
- ・人との交流、世界との交流、市民の健康のためにも、ささしまライブ 24 地区にカヌーポロ競技場などの水上競技場施設をつくることを一つの案として推奨します。競技場を作りその周りにカフェテラスを作れば、最高のロケーションとなること間違いのないと思います。
- ・堀止周辺に予定されている公園の年代層はどの年代が対象か。ジョギング等が考えられているようで、幼児・高齢者への対策は考えられているのでしょうか。
- ・堀止地区は、にぎわいゾーンとして位置付けるのであれば、思い切って堀止の船だまりを埋め立て、中川運河のエントランス空間にしてはどうでしょうか。船だまりを土地として造成して、一定規模の駐車場やささしまライブ 24 地区からの動線を整備すれば、中川運河へのアクセスが高まります。また、水上交通を整備する際にも、ターミナル基地として活用できる空間にもなると思います。運河の再生には、周辺地域の人だけでなく、他地域の人との交流も必要と考えます。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

堀止地区は、都心と港をつなぐ拠点として、船だまりに水上交通の乗船場を設置するとともに、西側の一部を埋め立てて、ささしまライブ 24 地区との一体的な利用が可能な緑地・プロムナードを整備する計画であり、幅広い年代の皆さまに水辺を楽しんでいただきたいと考えています。水上スポーツの活性化につきましては、これらの計画を踏まえながら、安全な水域利用を前提とし、その具体的な方策を検討してまいりたいと考えています。

《にぎわいゾーン／魅力ある運河景観の創出（1件）》

◆市民の意見の概要

- ・Y字に分岐する小栗橋北側は昭和時代の写真を見ると、建物で囲われ、まるでベネチアのような魅力的な空間で、他には無い非常に特徴的な中川運河固有の場所です。現在、露橋の水処理センターの改修に伴い建物が無くなって、このような特異な空間性を失ってしまっています。市民に開放される緑地になると言うことですが、この特徴的な空間を再興出来ないのでしょうか。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

露橋水処理センターは、学識者や地元住民等による検討を踏まえて、処理施設を地下に建設し、その上部空間において、水と緑の連続を確保する開放的な広場の整備を進める計画となっています。こうしたことから、当水処理センター敷地内の運河沿いには高い建物をできるだけ配しない方針で整備を行っています。

《モノづくり産業ゾーン／全般（3件）》

◆市民の意見の概要

- ・昔からの景観が残っています。昔からの名古屋を支えた産業です。そのまま残していただきたい。当然緑豊かに、散歩コースに、船も。
- ・産業ゾーンの辺り一帯は歩道を大人が歩くにも危険を感じる建物が沢山あります。子供を歩かせられるようには思えません。再生ができるのならば、子供達も安心して通行できるようにしていただきたい。
- ・産業ゾーンとしての整備は重要と思うが、風の通り道、親水空間として名古屋、中川のシンボルとなるような整備をしてください。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

計画書の方針3のように、モノづくり産業ゾーンにおいては、従来の港湾・物流産業に加え、今後成長が期待される産業の誘導を進めつつ、古い倉庫や荷役施設等の特徴的な景観要素を保存しながら、運河特有の味わいと魅力を高める環境の創出を図ってまいりたいと考えています。また、運河に張出す形で水辺側にプロムナードを整備し、水と緑が調和した魅力的で安全な空間づくりを進め、「モノづくりを支えるチャネルストリート」の形成をめざします。

《モノづくり産業ゾーン／沿岸用地へのモノづくり産業の誘導（3件）》

◆市民の意見の概要

- ・モノづくり産業ゾーンは、沿岸距離も長く、土地利用転換も困難なエリアと考えるが、具体的対応施策の考え方があれば示して欲しい。
- ・産業体験やものづくりを体感できる企業の誘致や、環境整備をしていただけたらと思います。
- ・「産業の高度化」の箇所はやや提案ありきの印象がある。地元企業・住民との協働をお願いしたい。新規事業が創出されるような機会を提供していただきたい。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

沿岸用地へのモノづくり産業の誘導にあたっては、計画書の方針3のように、沿岸利用者等の意見を踏まえつつ、新たな土地利用を展開するための貸付ガイドラインを策定・運用し、各ゾーンの特性や沿岸用地の利用状況、周辺地域の状況を見ながら、環境・エネルギー課題解決産業やクリエイティブ産業などの次代を担う産業の段階的な誘導を行います。

《レクリエーションゾーン（7件）》

◆市民の意見の概要

- ・緑地帯大分出来ています。カヌー等いいですね。一般のボートも。泳げる場所あれば最高。
- ・中川橋北 or 南に若手の物作りしている連中を集めてフローティングハウスを何隻か浮かべアートvillageにします。物作り愛知の理念と全国に先駆けて水辺をオシャレにすることが出来ます。
- ・二番煎じになるかもしれないが、「ミナミの道頓堀川に長さ1kmの巨大プール」のような計画は面白いと思う。
- ・水上スポーツの他に「手づくりイカダレース」のような、よりゲーム感覚的なものを取り入れる。
- ・東海橋⇄いろは橋の両岸を整備し、ボート競技など活性化し、人が集まる仕掛けがほしい。
- ・昨年ドラゴンボートレースを見学した。水しぶきを上げながら間近でレースを楽しんだ。親子で楽しめるボートや水上サイクリングの設備とともに子供がはだしで歩いても滑らない安全なデッキがあるといい。
- ・水と緑のレクリエーションエリアでは、いろは橋の上流側に遊歩道を延長していただきたい。途中で休憩のためのベンチや日陰がほしい。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

レクリエーションゾーンは、水上スポーツのさらなる活性化や、周辺緑地・公園との回遊性向上などにより、緑豊かな水辺で人びとが気軽に交流を楽しめるような「水と緑のレクリエーションフィールド」の形成をめざします。

中川運河の中川口周辺では、毎年名古屋レガッタなどが開催され、普段の練習の場としても利用されており、名古屋港漕艇センターは水上スポーツの拠点となっています。今後も、安全な水域利用を前提としつつ、皆さまの提案も参考にしながら、水上スポーツのさらなる活性化やイベントの開催などにより、人びとが気軽に交流を楽しめる空間にしていきたいと思います。また、花の匂いや緑陰を楽しみ、風を感じることでできるプロムナードの設置など、水辺の環境整備も進めてまいりたいと考えています。

【再生に向けたしくみについて（17件）】

《計画の進行管理／全般（3件）》

◆市民の意見の概要

- ・早期実現に向けすばやい対応願っています。
- ・中川運河単体ではなく、周辺地域（主に名古屋市内）全体でのマネジメントを意識していただきたい。
- ・いくつかの取り組みの概ね10年、20年の計画が掲載されていましたが、複数の取り組みをほぼ同時進行のような形で進めることに不安を感じます。取り組み案の中で順序を決めて実行していただきたいです。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

本計画では、今後10年間の取り組みについて、実施時期を前半・後半に分けて示しており、限られた予算の中で、沿岸用地の利用状況や周辺地域の開発動向を踏まえながら、効果的に実施してまいります。特に、開発が進むささしまライブ24地区に隣接するにぎわいゾーンにおいては、優先的に取り組みを進めてまいりたいと考えています。

《計画の進行管理／「(仮称)中川運河再生推進会議」(2件)》

◆市民の意見の概要

- ・「中川運河再生推進会議」と「中川運河プラットフォーム」の違いが良く分からない。
- ・PDCAサイクルでは、Pが名古屋市・名古屋港管理組合で、C・Aが推進会議になっているが、Action（見直し）をする役割は、Plan（計画）を策定する名古屋市・名古屋港管理組合が妥当ではないか。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

「(仮称)中川運河再生推進会議」は、市民・企業・学校・行政等の代表によって、運河再生に向けた取り組みの進行管理を行う組織です。「PDCA」の「Action（見直し）」につきましては、名古屋市・名古屋港管理組合だけでなく、推進会議において各主体の協働により行ってまいりたいと考えおります。しかし、ご指摘のとおり、PDCAの役割は明確に区別できるものではなく、相互に関連しますので、計画書を以下のように修正いたします。

- ・74ページ2行目：『「Plan」は名古屋市及び名古屋港管理組合が、「Do」は各事業主体がそれぞれ行い、「Check」「Action」は「(仮称)中川運河再生推進会議」が行います。』⇒『「Plan（計画）」は名古屋市及び名古屋港管理組合、「Do（実行）」は各事業主体、「Check（確認）」「Action（見直し）」は再生推進会議が、それぞれ中心となって行います。』
- ・74ページ 図6-1：PDCAの役割を担う各主体をとり囲む枠の削除
また、「(仮称)中川運河再生プラットフォーム」は、中川運河の再生に関心を持つ多様な主体が自由に参加・交流し、情報発信・情報共有ができるような場にしたいと考えていますが、わかりにくいというご意見がございましたので、計画書を以下のように修正いたします。
- ・75ページ：ページの構成の変更

《市民・企業等の活動の促進／全般（3件）》

◆市民の意見の概要

- ・中川運河最大の特徴は、企業・産業と一体となった運河であったこと。運河沿いの企業・産業の意見、中川運河に対してどのように感じているのか、今後どういうふうになってほしいのか、実際に、生活（仕事）の場としている人達の意見が聞きたい。そこに再生又は活用のヒントがあるのではないか。
- ・女性、高齢者、若者、そして何よりも（「代表」とは限らない）住民の意見が反映されやすいようにお願いしたい。
- ・基本的な理念及び再生方針は理解しますが、今一つ具体性に欠けていると思われます。魅力ある運河を作り出し、人が集まる目的とする必要があります。とって大規模な開発を期待しては本来の運河の魅力を失わせます。地域住民・名古屋市民、企業の小さな協力を積み重ねて歴史・文化を作り出すものとしなければなりません。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

本計画は、ワークショップやシンポジウム、アンケートなど様々な方法により、市民や企業、有識者の皆さまからのご意見を伺いながら、策定を進めてまいりました。今後も、「（仮称）中川運河再生推進会議」や「（仮称）中川運河再生プラットフォーム」など、市民・企業・学校・行政等の幅広い意見が反映できるしくみを構築し、様々な主体の協働により運河の再生を進めてまいりたいと考えています。

《市民・企業等の活動の促進／運河再生をサポートする人づくり（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・「運河びと」として、認定される要件は何か。また、何かメリットはあるのか。
- ・空間的、利用方法的な繋がり他に、「中川運河を愛する人なら〇〇を大切にしよう」と言うような運河マインド、運河スピリットを生み出して行くと、様々なことが根底で繋がり、運河らしい文化が生まれ、運河らしい産業が育つのではないのでしょうか。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河の再生には、運河に関心・興味を持ち、積極的に市民活動に参加するなど、より多くの人びとが運河再生に関わることが重要です。そこで、生涯学習センターの講座やシンポジウム、環境学習、清掃活動に参加していただいた皆さまを「運河びと」と認定し、中川運河に関する様々な情報を提供してまいりたいと考えています。

《市民・企業等の活動の促進／情報発信・情報共有（5件）》

◆市民の意見の概要

- ・以前、宮本輝の「泥の河」（小栗康平監督）のロケが小栗橋付近であった。ロケに適する場所は多くあるので、もっと関連業界にPRする。
- ・かつては名古屋の発展に大きく貢献してきた運河、今後は中川運河の魅力を多くの方々に知っていただくよう、大々的にPRしていくことが必要かと思えます。
- ・観光関係業者の誘致又は名古屋市交通局へのアピール。
- ・インターネットは確かに大きな武器となりえます。しかし、活動報告を行うだけでは一般の人々は注目してくれません。まずは「運河」を頭から切り離してみ、「ターゲットである人々は何が好きなのか」を徹底的に洗い出してみ、その中で、運河再生計画に生かせるものを模索してはどうでしょうか。人を呼ぶためには、その人々が求めるものを満たす、ということに重点を置かなくては、実現は難しいでしょう。
- ・取り組み案の順序についてより詳しい情報開示を望みます。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

行政が関係する団体等がそれぞれの活動内容やイベント情報などを様々な媒体を活用して、共有し、発信していくため、「（仮称）中川運河再生プラットフォーム」において情報発信・共有の連携体制を構築していきます。

《市民・企業等の活動の促進／中川運河の価値の向上（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・好循環が生まれるのは事業がかなり軌道に乗ってからではないか。P75の図6-4「中川運河の価値向上の好循環」について、「事業の実施→来訪者の増加→交流の活発化」とありますが、事業の実施が成功するための前提条件として、継続的にそこに来訪者が存在していることが必要です。それに「事業の実施」という表現が曖昧なため、具体的にどういった要因が「事業の実施→来訪者の増加」という流れになるのか不明です。
- ・店を建てたり、歩道を整備したり、水をきれいにしたら簡単に人が集まるとお考えのように思えます。人はそう簡単に集まりません。まずはどんな人々（どんなニーズを持った人々）を引き付けたいかを明確にし、その人々が中川運河に足を運ぶにあたってどういった本質サービスや状況を求めて来るのかを熟考する必要があります。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

中川運河の再生には、にぎわい施設の誘導、緑地・プロムナード・乗船場の設置、高度処理水の導入等のハード整備と合わせて、市民の交流・創造活動や学習教材としての活用などソフト対策を両輪で効果的に進め、魅力を高めていくことが重要です。今後は、「（仮称）中川運河再生プラットフォーム」などにおける意見交換により、皆様のニーズ等も把握しながら、具体的な対応について検討してまいりたいと考えております。

【その他（3件）】

《中川運河へのアクセス性（2件）》

◆市民の意見の概要

- ・懸念材料は計画どおり行った時の交通量の問題です。基幹バスの運用も共に計画願いたいところでは。
- ・交通機関の不便さも考えなければならないでしょう。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

運河の周辺には、地下鉄名港線、あおなみ線、名鉄の各駅があります。また、運河沿いの道路にはバスが運行しています。今後、プロムナード等の設置による鉄道駅との連携や、水上交通の活性化による水運の充実、沿岸用地における駐車場の確保など、運河の再生にあわせ、アクセス性の向上についても検討していく必要があると考えています。

《市民等の意見の反映（1件）》

◆市民の意見の概要

- ・資料6「市民や有権者の意見」について、理想を述べたものや抽象的な案がほとんどであり、それを行うためにはどうすれば良いのか、という部分の指摘や、現在の活動に対する疑念や批判に関する意見は集まっていないのでしょうか。

◆名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

過去のワークショップやシンポジウム等においては、中川運河の将来像について皆さまから提案をいただくという趣旨からご要望や期待を寄せられたものが大半でしたが、資料6にもありますように、一部では、「一般市民の憩いの場という雰囲気は全くない」、「今まで人が歩いていなかったところに急にレストランや店が並ぶとは思えない」などのご意見もありました。

今後は、本計画にもとづき、「（仮称）中川運河再生推進会議」や「（仮称）中川運河再生プラットフォーム」などの場で意見交換しながら、運河再生を推進してまいりたいと考えています。

中川運河再生計画(案)からの主な変更点

ページ	修正の内容
31 ページ 4 行目	『倉庫群や特徴的なデザインの橋梁など、歴史的なたたずまいを醸し出す運河特有の空間を、適切な維持管理のもと保存・活用していきます。』を『倉庫群、特徴的なデザインの橋梁、樹木など、歴史的なたたずまいを醸し出す運河特有の空間を保存・活用していきます。』に修正しました。
31 ページ 6 行目	『運河にゆかりのある周辺の歴史資産』を『運河周辺の歴史資産』に修正しました。
34 ページ 7 行目	『視点場を発掘し、情報発信します。』を『視点場を発掘・創出し、情報発信します。』に修正しました。
37 ページ 4 行目	『中川運河の再生には、良好な水環境の創出が不可欠です。』を追加しました。
41 ページ 5 行目	『運河施設の耐震性や耐波性のさらなる強化を図ります。』を『運河施設の耐震性や耐波性のさらなる強化を図りつつ、防災情報の発信・共有を行います。』に修正しました。
42 ページ 9 行目	『防災情報の発信・共有』の項目を追加しました。
57 ページ 13 行目	『視点場を発掘し、発信します。』を『視点場を発掘・創出し、情報発信します。』に修正しました。
62 ページ	プロムナードの護岸断面の図を挿入しました。
65 ページ 11 行目	『防災情報の発信・共有』の項目を追加しました。
67 ページ	「表 5-5 主な取り組みの展開時期（防災）」に、『防災情報の発信・共有』の項目を追加しました。
68 ページ	「図 5-1 10 年間の主な取り組み内容」の「中川運河全域」に、『・防災情報の発信・共有』を追加しました。
69 ページ	「中川運河全域」の主な取り組み内容に、『防災情報の発信・共有』の項目を追加しました。
74 ページ 2 行目	『「Plan」は名古屋市及び名古屋港管理組合が、「Do」は各事業主体がそれぞれ行い、「Check」「Action」は「(仮称)中川運河再生推進会議」が行います。』を『「Plan（計画）」は名古屋市及び名古屋港管理組合、「Do（実行）」は各事業主体、「Check（確認）」「Action（見直し）」は再生推進会議が、それぞれ中心となって行います。』に修正しました。
74 ページ	「図 6-1 計画の進行管理イメージ」を修正しました。
75 ページ	ページの構成を変更しました。
81 ページ	「資料 2 中川運河再生計画策定経過」に、本年度実施内容を追加しました。
85 ページ	「資料 4 シンポジウム等の開催」に、『中川運河ふれあいまつり』と『中川運河再生シンポジウム 2012』の内容を追加しました。